

令和2年度 荒川区教育研究会 小学校理科部

研究主題

意欲的に問題解決に取り組む児童の育成 ～見方・考え方を働かせて～

1 研究主題設定の理由

学習指導要領が平成29年に告示され、令和2年度より本格実施された。学校の教育活動を進めるに当たっては主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を通し、児童に生きる力を育むことが望まれる。育成を目指す資質・能力は、以下のように明確化されている。

- (1) 「知識・技能」の習得
- (2) 「思考力・判断力・表現力等」の育成
- (3) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養

また、小学校理科の目標は以下のとおりである。

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

平成20年度の学習指導要領と比較すると、「見方・考え方を働かせ」という一文が加わった。主体的・対話的で深い学びの実現には、それぞれの教科に応じた「見方・考え方」を意識しながら指導する必要がある。そのためにも、児童が「見方・考え方」を働かせているという様子を、教師がより具体的にイメージして指導に当たることが求められる。児童自らが「見方・考え方」を働かせて問題解決に取り組むことができれば、意欲的に学習に取り組む姿となりうると考えられる。

荒川教育研究会理科部は平成28年度より「意欲的に問題解決に取り組む児童の育成」を研究主題としていたが、さらに「見方・考え方」に焦点を当てながら研究を進めてきている。少しずつではあるが、「理科の見方・考え方」とは何かを教員自身が理解しながら授業づくりに取り組めるようになったことは成果の一つである。しかし、児童が「見方・考え方」を働かせるための手立てとはどのようなものか、児童が意欲的に問題解決に取り組んでいる様子をどのように見取るのか等の課題もあり、さらに研究を進めていく必要がある。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年のような事前の授業づくりや研究授業の実践を行うことは難しい。しかし、各校において、児童が学習意欲を失わずに学べるような手立てや工夫がされている。私たち教員は、児童が理科の楽しさを実感しながら、意欲的に学ぶことができるように努める責務がある。色々な制限はあるが、荒教研小学校理科部としては研究主題が達成されるような日々の授業を行い、児童の姿として現していきたい。

2 研究の仮説

「理科の見方・考え方」を働かせるための指導の工夫を行い、その成果を見取りながら指導の改善を加えていくことで、意欲的に問題解決に取り組む児童が育つであろう。

3 今年度の研究の方向性

今年度の荒教研小学校理科部は、研究主題を受け、以下のことに重点を置いて研究を進めていく。

(1) 分科会ごとの授業実践

- ① 3、4、5、6年の4つの分科会に分かれ、一人一人が各校において授業を実践する。分科会メンバー同士による参観は行わない。専科などの教員は授業を実践しないが、分科会の支援にあたる。
- ② 授業を実践し、成果、課題、記録などを次回の荒教研に持参し、情報を共有する。

(2) 授業づくり

- ① 分科会で単元を決める。単元のどの時間を実践するかは分科会に一任する。
- ② 同じ時間の授業実践でも、異なる指導方法や教材・教具利用があってもよい。
- ③ 今年度は指導案を作成しないが、必要に応じて略案を作成してもよい。

(3) 主題に向けた検討

- ① 単元や本時において、教員は「見方・考え方」をどのように捉えるのか。
- ② 児童が「見方・考え方」を働かせるためには、どのような手立てがあるのか。
- ③ 児童が「見方・考え方」を働かせ、意欲的に問題解決に取り組んでいる様子を、どのように見取るのか。

(4) 研究のまとめ

- ① 授業実践を基に分科会で情報を共有し、成果や課題などをまとめていく。
- ② 2月10日（水）に研究の振り返りを行う。その中で、分科会ごとの授業実践の成果や課題なども発表する。

4 研究のイメージ図

